

つくり  
続ける  
泉佐野丘陵緑地  
のあゆみ

総集編

府民や企業との  
パートナーシップによる  
公園づくりへの挑戦





# はじめに

大阪府のパートナーとなるパーククラブが発足して10周年を契機に、これまでの軌跡を振り返る「つくり続ける泉佐野丘陵緑地のあゆみ」が編纂されることは、単にこれまでの歩みを記録するだけでなく、常に新たな展開にチャレンジし続けてきた本緑地の次のフェーズの礎になるものと確信しています。

21世紀に入り、高度経済成長を背景とした成長型都市づくりから、これまで経験してこなかった人口減少型社会を背景とする成熟型都市づくりへの転換が求められる中で、2006年に泉佐野コスモポリスの跡地を活用するための「土地利用検討委員会」が開催され、21世紀にふさわしい新たな都市公園づくりへのチャレンジとして本緑地の整備がスタートしました。

この検討会では、成熟型社会における新たな公共のあり方を示す事業として、重要な視点は、環境への配慮とともにこれまでのスクラップ＆ビルト型ともいえる巨大な初期整備費の抑制を図り、長期に渡り事業を継続するために「現状の景観を重視した緑地の保全・育成・創造」を目指すとともに、従来までのマスター・プラン型の事業展開に代わって、計画段階から将来の管理運営段階まで、継続的に事業を推進するシナリオ型公園整備が目指されました。もう一つの重要な視点は、早期に公的な機能を発揮し府民に還元するとともに、あらゆる局面での参画型社会を実現するために、計画当初から府民参画が目指されたことです。

このような新たな公園づくりを推進するためには、これまでの「ものづくり」といったハード整備にも増して、ソフトとしての「仕組みづくりの必要性」がずいぶん議論され、事業主体である大阪府も積極果敢に取り組まれました。その一つの表れとして、新たな公園づくりの在り方を常に模索し、チャレンジし続ける仕組みとして、計画当初からすべてのステークホルダーが参画する「運営会議設立準備会（運営会議を経て、現・運営審議会）」が立ち上げられ、現在も継続している点です。もう一つは、これまでのボランティア活動の枠組みを超越し、管理者である大阪府のパートナーとなる府民の育成と参画の仕組みづくりでした。そのため、当初から「パークレンジャー養成講座」を開講し、受講生による組織づくり（パーククラブ）を推進するとともに運営会議への参画を図った点です。さらに、2007年には、大阪府内の企業グループ「大輪会」が新たな公園づくりに賛同頂き、「パーククラブ」の活動に支援を決定したことであり、これによって「真の参画型公園づくり」が実現し、今も継続しています。

ハード面では、府民参画や府民利用をサポートするために、大阪府が中心となって整備を行う「リーディング

区域」を設定する一方、パーククラブに代表される府民参画によって長期に渡って継続的に整備しつづける「コラボレーション区域」が設けられました。このコラボレーション区域での整備は、「アダプティブマネジメント（順応的管理）」の考え方の下で、植生を基本とした小区画を対象に、目標とする環境像を皆で考え、目標像に向かって皆で整備し、皆で継続的に使いこなす（管理する）ことを順次、くり返しながら、現在に至っています。

以上のような基本的な考え方や姿勢、実行された行動は、本緑地の理念として共有され、現在も大切に引き継がれています。

2006年から2009年の構想期に始まり、2010年から2013年の準備期を経て、2014年に開園し、2017年までの初動期を経過して、現在では活動の本格期に至っています。

パーククラブの活動も複数の班活動が活発に展開されるとともに全体活動の充実も図られようとしています。また、府民が自由に企画し、実行できるえんづくりプログラムや郷の棚田プログラムも定着し、新たに企業の森活動もスタートし、多様な府民並びに府内企業の活動が促進されつつあります。また、里地里山としての管理が滞り竹林化の進行した樹林や雑草群落化した農地跡もパーククラブの活動によって一定整序され、複数の園路や広場も整いつつあります。

折しも、世界中での新型コロナウイルス感染症の蔓延を契機に、身近に存在する都市公園等のオープンスペースが貴重な存在として見直されており、本緑地への期待も益々高まるものと思われます。

府民、企業の参画の下で、「つくり続ける」を長期的に継続するためには、大阪府の行財政に留まらずこれまでにも増して幾多の課題もあろうかと思われます。今回編纂した「あゆみ」を礎に、創造的発想を刺激し、常にチャレンジし続けることを期待します。また、この「あゆみ」が先行事例として、全国の新たな都市公園づくりの参考になることも期待しています。



増田 昇（ますだのぼる）  
大阪府立大学 名誉教授。大阪府立大学植物工場研究センター長。専門はランドスケープアーキテクチュア（緑地計画学）、都市計画学。元日本造園学会会長。大阪府、堺市をはじめ、都市行政の審議会委員を歴任。平成25年度より泉佐野丘陵緑地運営審議会会长。

# 目次

つくり続ける泉佐野丘陵緑地のあゆみは、  
「基本編」「履歴編」の2部構成になっています。

## 基本編

<b>1章 泉佐野丘陵緑地が大切にしていること</b>	…P04
1-01 公園の理念	
1-02 公園整備の考え方	
<b>2章 泉佐野丘陵緑地の環境について</b>	…P08
2-01 公園の基本情報	
2-02 公園の地形	
2-03 公園の植生	
<b>3章 泉佐野丘陵緑地の運営主体・活動</b>	…P12
3-01 シナリオ型の公園づくり	
3-02 公園づくりの運営主体	
3-03 運営体制の変遷	
<b>4章 公園づくり年表（全容）</b>	…P18

## 履歴編

<b>01 構想期（2006～2009）</b>	…P23
公園づくり年表	
構想期の解説	
<b>02 準備期（2010～2013）</b>	…P29
公園づくり年表	
おもなエピソード	
整備の変遷	
準備期の解説	
<b>03 初動期（2014～2017）</b>	…P43
公園づくり年表	
おもなエピソード	
整備の変遷	
初動期の解説	
<b>04 本格期（2018～2019）</b>	…P57
公園づくり年表	
おもなエピソード	
整備の変遷	
本格期の解説	

## 基本編

「基本編」は、泉佐野丘陵緑地が整備を進める上で 10 年前から大切にしてきた理念や、前提となる自然環境の条件、公園づくりを進める際の運営体制などを記しています。その内容は 2007 年に作成された「泉佐野丘陵緑地基本計画」が基本となっており、「山の辺(ほとり)の "えん"」を大切にするという大きなテーマのもと、「景観を重視した公園づくり」「シナリオ型の公園づくり」「環境に配慮した公園づくり」「地域の活性化などに役立つ公園づくり」という 4 つのポイントを踏まえた新しい公園づくりを進めてきました。



1章

# 泉佐野丘陵緑地が 大切にしていること

泉佐野丘陵緑地の理念は、2007年度に作成された「泉佐野丘陵緑地基本計画」で設定されました。「山の辺（ほとり）の“えん”」を大切にするという大きなテーマのもと、新しい公園づくりを進める上で大切な4つのポイントが示されています。



## 泉佐野丘陵緑地基本計画について

基本計画では公園の理念を示した上で、約10年の期間を「序幕」「一幕」「二幕」の3段階に分けました。また事業を展開するにあたっては、対象地全体を東地区・中地区・西地区に分け、その中でも最もアクセスが良く、一定の平坦地があり活動を展開しやすいと考えられた中地区を中心に行われることになりました。

### 事業展開

#### 序幕（1～3年）

- 中地区の平坦地に駐車場、トイレ、園路などを整備する。
- 中地区的活動者を育成する場として講座を進める。
- 探索活動を開始し、以後の公園づくりを考える。

#### 一幕（4～6年）

- 中地区的拠点施設となるパークセンターを整備する。
- 講座修了生による活動組織が中地区の整備に取り組む。
- 西地区、東地区的探索活動を開始する。

#### 二幕（7～9年）

- 中地区が開園し、府民利用が始まっている。
- 活動組織による活動が継続し、中地区的景観を充実させる。
- 西地区、東地区に最低限必要な園路やトイレを整備する。

### 計画の構成

- 全体テーマ
- 3地区の目標像
- 中地区的整備方針
- 西・東地区的整備方針
- 事業展開方針
- 公園運営方針

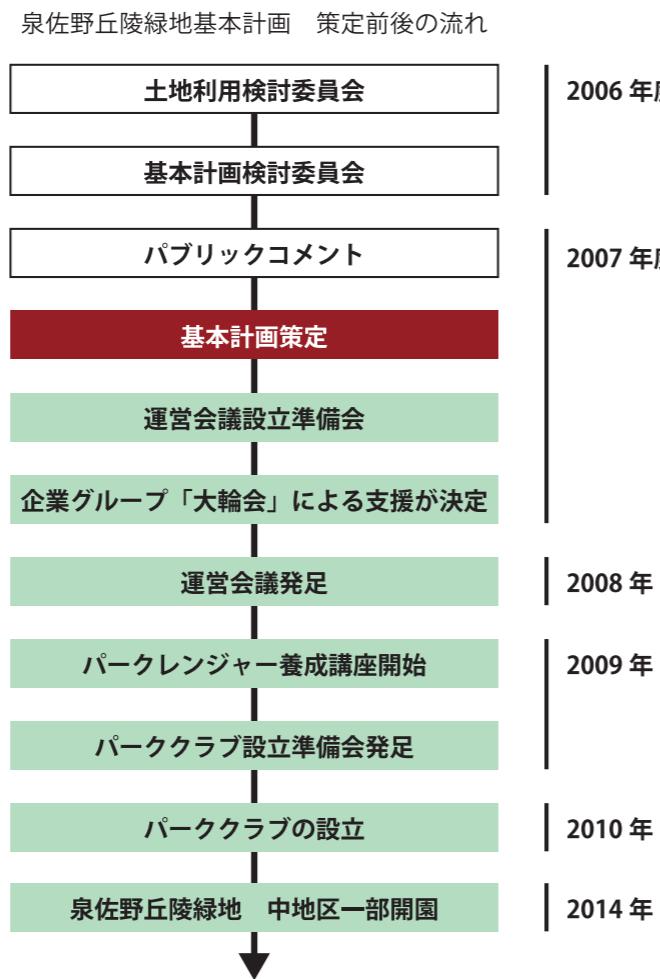
## | 1-01 | 公園の理念

### 土地利用検討委員会について

2006年度「泉佐野コスモポリス跡地の土地利用について／大阪府泉佐野丘陵部土地利用検討委員会」において、「景観を重視した緑地の保全・育成・創造」、また『計画段階から管理運営まで将来を見据えた継続的な事業推進』を図る都市公園として、21世紀にふさわしい、限りある環境と資源と調和した新しいタイプの都市公園づくりの将来像や、その実現に向けて有効な方策を見出すこと」が提言されました。この内容を踏まえて、基本計画検討委員会が設立されました。

### 泉佐野丘陵緑地基本計画検討委員会による検討について

学識経験者や地元関係者など6名からなる「泉佐野丘陵緑地基本計画検討委員会」を設置され、4回の委員会開催を経て、全体テーマ、3地区の目標像、中地区的整備方針、西・東地区的整備方針、事業展開方針、公園運営方針等の形で基本計画が取りまとめられました。



### 公園の理念

#### ほとり 山の辺の「えん」～日本の伝統色が織り成す「えん」としての公園づくり～

**山の辺** 泉州の山の辺の景観特性やそこで育まれた文化を活かしながら多彩なみどり景観づくりを行い  
**「えん」** みんなで演出しながら楽しみ、育む

近年の社会潮流変化を踏まえて、21世紀に初めて開設する府営公園として、以下のポイントのもとに整備を進める。

#### 景観を重視した公園づくり

建設重視型の公園整備ではなく、地形や自然環境の保全と活用、樹林の再生などをすることで、美しい樹林・水辺・田園といった計画地が元々持つ景観の魅力を引き出し、様々な風景との出会いを楽しめる公園づくりを進めいく。

#### シナリオ型の公園づくり

様々なジャンルの活動主体が明確な将来像のもとで、話し合いながら活動を展開し、息長く事業を推進していく。将来像の実現に向けた戦略と手法を1つの脚本（シナリオ）として共有しつつ実行し、成果の評価と再検討を行うなど、みんなで育てる公園づくりを行う。

#### 環境に配慮した公園づくり

ため池や樹林地、貴重な生物など計画地の自然環境を守るとともに、公園づくりの過程で発生する間伐材・剪定枝などのリユースや子供向けの環境学習の実施など「環境に配慮した公園づくり」を進める。

#### 地域の活性化などに役立つ公園づくり

学校・地場産業・企業・各種団体などのソーシャルネットワーク構築による様々な活動・プログラムの展開、地域緑化・福祉・コミュニティ形成等に活躍する人の育成、観光ネットワークの拠点形成など地域の活性化などの媒介となる公園づくりを進める。

## 1-02|公園整備の考え方

公園整備を進めるにあたっては、西地区・中地区・東地区の中でも、最も活動を展開しやすいと考えられた中地区から着手しました。中地区については、リーディング区域とコラボレーション区域に分けて整備を進めることとしました。リーディング区域は公園の入口として大きな園路やパークセンターなどを整備する区域、コラボレーション区域は府民と行政が一緒に手づくりで整備する区域としました。



### リーディング区域とは

誰もが安全に公園を楽しめるように、運営審議会の意見を聞きながら行政が中心となって整備する区域です。公園の中心となる施設（パークセンター等）や公園を訪れる人のための駐車場などの公園の基盤となる施設が対象です。

### 整備の考え方

最も街に近いこの区域は公園の顔です。多くの来園者を迎える場となるように、山の辺の景観を大切にしながら、荒れた自然や景観を修復してきました。また、公園づくりを先導するパークセンター等の中心施設や駐車場をつくりました。車椅子も通れるようゆるやかな道をつくるため、地形を改变することもあります。

### 大切な景色

- 公園の外から見たなだらかな丘の景色
- 棚田跡のだんだん
- 公園の顔になる森



### コラボレーション区域とは

園路や広場などについて、府民と行政が企業などの応援を受けて、運営審議会の意見を聞きながら議論してつくる区域です。またシナリオ型による進め方を基本として、一度作り終えたら完成するのではなく、ゆっくりと更新し続ける（つくり続ける）ことを大切にしています。

### 整備の考え方

この区域は中地区のシンボルとなるため池と、多様な活動展開が期待される棚田跡地や竹やぶ、樹林を備えた場所です。「どんな森にするか」「どんな施設をつくるか」は公園内の探索活動を通じて府民と行政が一緒に考えることはもちろん、大きな園路から分岐する小路や色々な施設は活動を通じて府民と行政が一緒につくっていきます。

### 大切な景色

- 向井池を周りながら、樹林地・ため池・小池が織り成す多彩な風景
- 公園を訪れた人が安全に楽しむことができる広場
- 区域を囲む樹林
- 小さな谷間や小池などの小さくてやさしい地形

### コラボレーション区域



2章

# 泉佐野丘陵緑地の環境について

泉佐野丘陵緑地を整備にするにあたっては、「環境に配慮した公園づくり」が重要なポイントとなります。そのため、公園の地形や植生を理解しながら整備を進める必要があります。この章では、これまでに整備を進めてきた中地区について解説します。



## |2-01| 公園の基本情報

### 位置・面積

泉佐野丘陵緑地は大阪府泉佐野市に位置し、市域南部の和泉葛城山系の前山に位置する標高 40~100m の丘陵部にあります。泉佐野丘陵緑地は、3 つの地区（中地区、西地区、東地区）からなり、公園全体の面積は約 74.5ha です。現在は中地区のみ開園し、今も整備が続いている



### 公共交通を利用

JR 長瀧駅から南東へ約 2200m

### 車を利用

上之郷インター前交差点から西へ約 700m



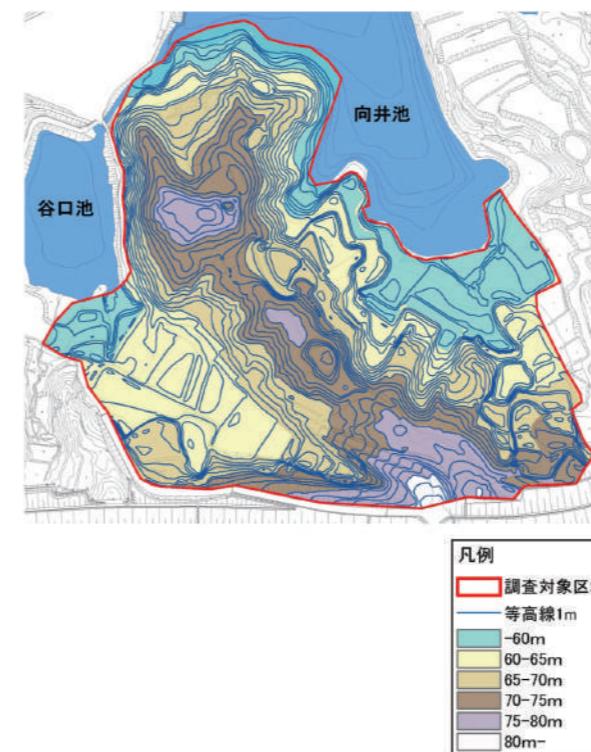
## |2-02| 公園の地形

この公園は尾根と谷が複雑に入り組んだ地形をもっています。尾根部分は雨や日光が直接当たり、乾燥しているため、栄養素の低い土壌層が非常に薄く堆積しています。一方、谷の部分は、雨水が土と一緒に土壌の養分も流れ込むため、栄養素の高い土壌が非常に厚く堆積しており、多様な動植物の生息環境を形成しています。

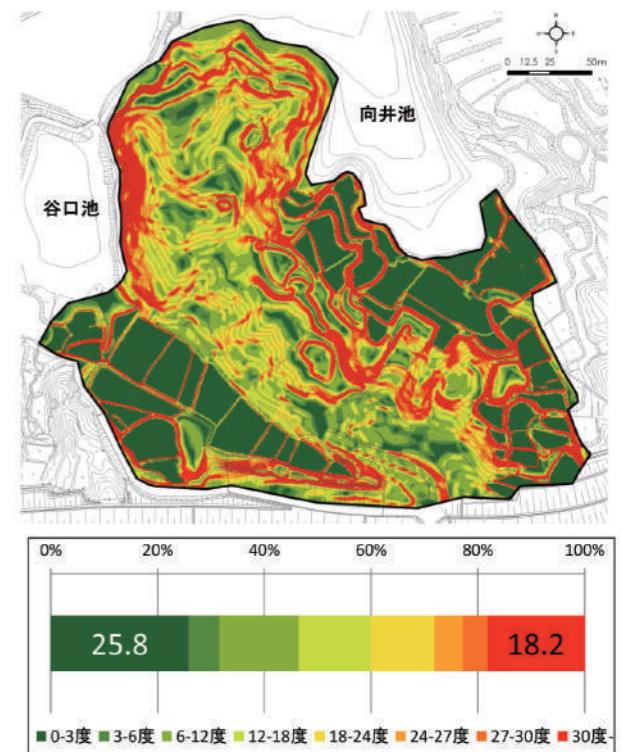
### 中地区

- 北西に開けた谷地形で、地形を活かした中央の向井池や谷口池と池に迫り出すように伸びる3本の緩傾斜の尾根から構成されています。
- 尾根部周辺は、地形を活かした棚田跡と小規模のため池が見られます。

### 標高



### 傾斜度



向井池



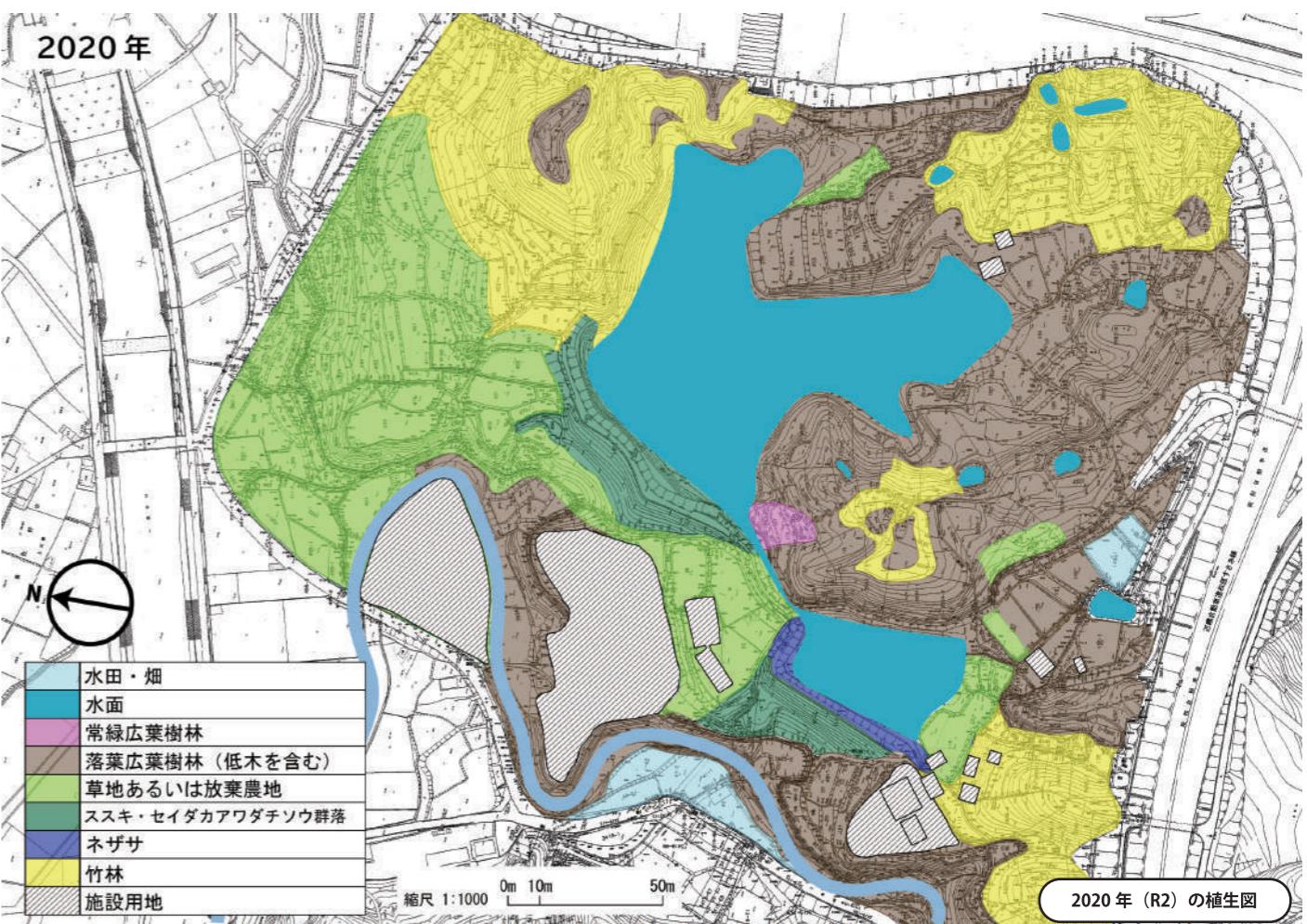
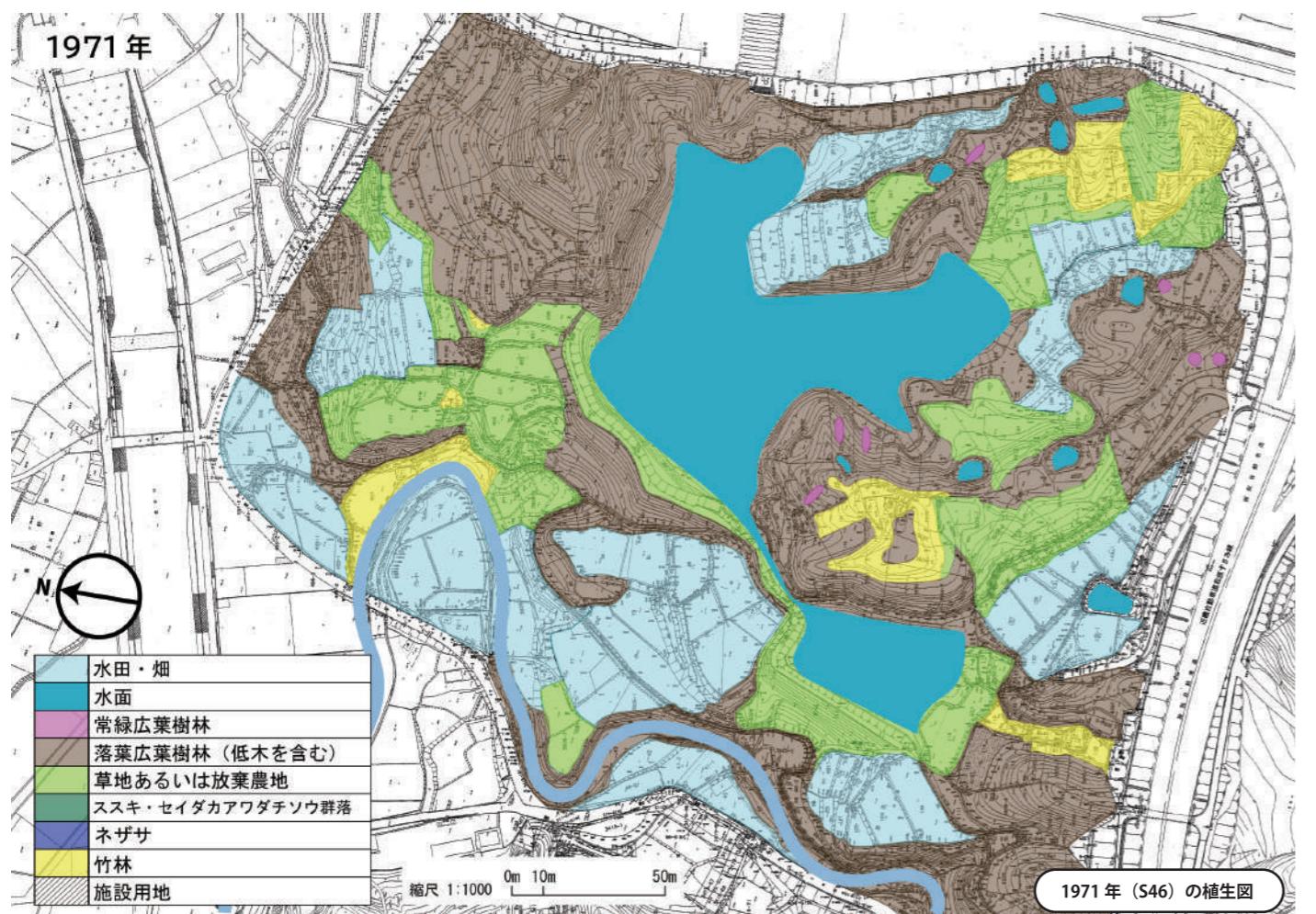
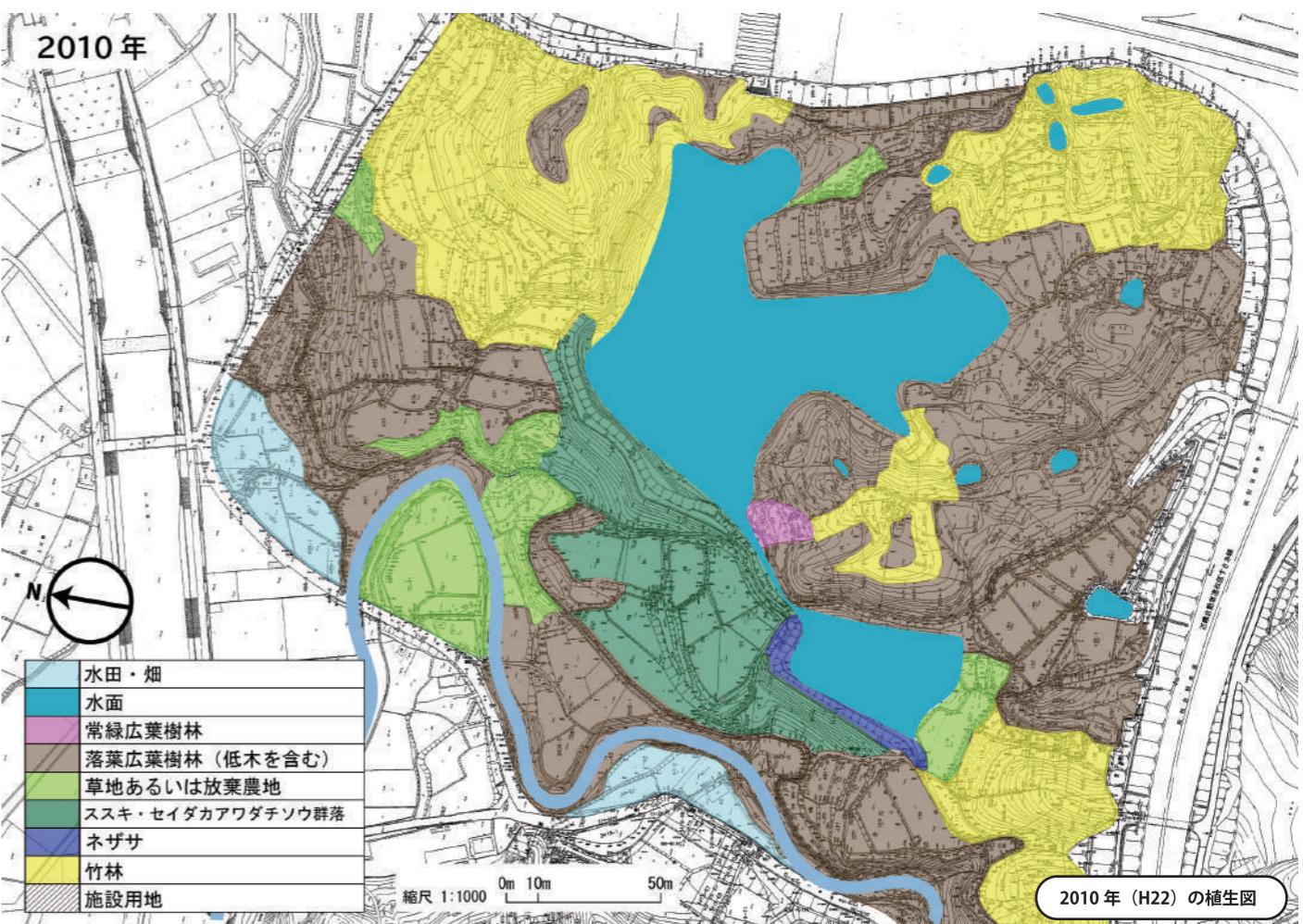
棚田

## 2-03 公園の植生

公園の整備においては植生を理解することが重要です。1971年の航空写真から当時の植生を読み取ると、例えば谷口池北側には農地が広がっていたことがわかりますが、整備が本格的に始まった2010年には低木林などに変化しています。また2010年から現在にかけては植生に大きな変化はありませんが、それは植生を大切にして整備を進めてきた証ともいえます。



1971年（S46）の航空写真





3章

# 泉佐野丘陵緑地の運営主体・活動

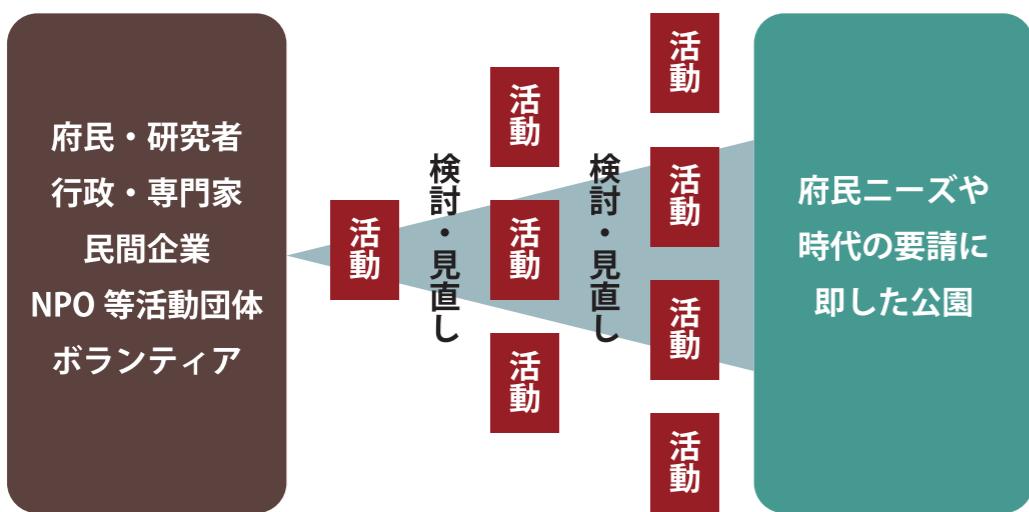
泉佐野丘陵緑地は、様々な活動主体が話し合いながら活動し、息長く事業を展開する「シナリオ型の公園づくり」が重要なポイントです。このシナリオに登場する主体には、おもに運営主体と活動主体が存在しています。



## |3-01| シナリオ型の公園づくり

### ① シナリオ型の公園づくりとは

公園にかかわる人たちが楽しく公園づくりを行えるように、公園づくりのシナリオとなる活動のルールや、活動場所ごとの将来像をみんなで話し合いながら公園づくりを進めています。一度決まったルールも見直し、必要があれば何度も変更します。このルールを理解した人たちが公園で活動を展開することで、プログラムや活動の輪をどんどん広げていきます。時代とともに、地域とともに姿を変えながら府民のニーズに応え、いつまでもつくり続けています。



### ② シナリオ型の公園づくりの運営主体

公園の運営主体となるのは、公園管理者である大阪府と、大阪府とパートナーシップを締結しているパーククラブです。

パーククラブは、公園づくりに必要な考え方と技術を学ぶパークレンジャー養成講座の修了生によって構成されています。この2者が公園現地で話し合いながら、整備活動や、来園者が楽しめるイベントなどを運営しています。

そしてこの2者を支えているのが、運営審議会と大輪会です。運営審議会は大阪府とパーククラブに加えて、学識者や民間企業、行政関係者などで構成されており、公園運営に関する方向性やルール、現地の整備や活動などについて話し合い、運営主体に助言する場です。企業グループである大輪会からは、2008年度から10年間に渡って総額2億円相当の寄付をいただきました。



大阪府



パーククラブ

公園の管理者として、また公園を通じて様々な主体をつなぐコーディネーターとして、公園で活動する人たちをサポートしています。

支援



助言



資金・物資

**運営審議会**  
公園づくりの方針やルールの検討、活動へのアドバイスを行う場です。学識者や民間企業、パーククラブ、行政関係者などで構成されています。

**大輪会**  
関西を基盤とする企業グループで、地元大阪の花と緑による活性化を支援しており、この公園も支援していただいています。

### ③ シナリオ型の公園づくりの活動主体（パーククラブに加えて）

活動主体とは、公園の運営には関わらないものの、運営主体が定めた枠組みに沿って活動する主体を指します。2014年度の開園より以前は、公園で活動できるのはパーククラブのみでした。しかし開園以降はパーククラブに加えて、「えんづくりプログラム」と「郷の棚田プログラム」という枠組みを設けました。これらのプログラムでは、公園に企画書を提出し、それが運営審議会（もしくは事務局）で承認されれば、公園で活動することができます。また企業が活動することができる枠組みとして「企業の森活動」もあります。



えんづくりプログラム

府民が来園者に向けて、公園の自然を活かしたプログラムを提供できる仕組みです。これまで展示・体験・工作などの企画が実施されました。



郷の棚田プログラム

府民が郷の棚田で景観づくりを行うプログラムです。これまでコスモスやヒマワリなどを栽培し、その草花を利用したイベントも実施されました。



企業の森活動

リーディング区域にある企業の森エリアで行われる活動です。現在は不二製油（株）が「阪南の森活動」として整備に取り組んでいます。

# 3-02|公園づくりの運営主体

## 大阪府

泉佐野丘陵緑地は第19番目の大阪府営公園です。他の18公園は指定管理者制度を取り入れていますが、泉佐野丘陵緑地は地域の方々や企業、団体と協力しながら府が直営管理を行っています。担当部署は岸和田土木事務所泉佐野丘陵緑地工区です。

大阪府では、今までにない「新しい公園づくり」をめざし、ボランティア養成講座や、公園の方針やルールなどを議論する運営審議会など、実践に必要な仕組みをつくり進めてきました。

また、パーククラブと一緒に職員が園路づくりに汗を流すとともに、公園として必要なパークセンターや便所、水道や下水道、電気などのインフラ施設を工事発注で整備しました。さらに、大輪会の支援のもと花苗を生産し、人の集まる場所へ年間約4万株の花を提供することにより、都市緑化にも貢献しています。



建設当時のパークセンター



大輪会の支援による花苗の生産と提供

## パーククラブ

パーククラブは、大阪府と協働して公園づくりを行うボランティア団体です。泉佐野丘陵緑地のテーマや理念を共有し、コラボレーション区域の整備やイベント・プログラムの企画などを通じて「人と公園をつなぐ活動」を進めています。自分たちだけが楽しむのではなく、府民の皆さんや、公園を訪れる皆さん、広く楽しむことができる公園を目指して、パーククラブのメンバーが「やってみたいこと」「必要なこと」を考えながら企画・活動に取り組んでいます。



パーククラブの6つのチーム（2020年度）



園路竹林チーム



棚田チーム



自然ふれあいチーム



果樹樹木キノコチーム



竹工作チーム



天神川流域整備チーム

園路の整備や増設、竹林の維持管理など

レンジャー棚田の維持管理や、お米や野菜の育成など

園内の植物や昆虫、野鳥などの調査や育成、観察会など

果樹の育成管理、樹木苗木の育成と植林、シイタケの栽培

園内の竹を使い、竹とんぼや水鉄砲、楽器の工作など

公園に隣接する天神川で、虫の調査や観察場の整備

## 運営審議会

運営審議会は、大阪府附属機関条例第6条に基づいて構成された会議体であり、公園づくりの方針やルールの検討、公園での活動へのアドバイスなどを行う場です。前身となる運営会議は2008年度からスタートし、2012年度に運営審議会へと体制変更され、学識者や民間企業、パーククラブ、行政関係者などで構成されています。現在は年に4回開催されており、この冊子の内容についても運営審議会で議論しながら検討されました。



運営審議会委員（2020年6月現在）

- ・大阪府立大学 名誉教授：増田昇（会長）
- ・元大阪府立大学大学院 教授：前中久行
- ・大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授：加我宏之
- ・大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授：武田重昭
- ・泉佐野丘陵緑地パーククラブ代表：久住和茂
- ・泉佐野丘陵緑地パーククラブ副代表：小門豊
- ・泉佐野丘陵緑地パーククラブ事務局長：那須利之
- ・和歌山大学システム工学部 准教授：佐久間康富
- ・和歌山大学システム工学部 教授：宮川智子
- ・泉佐野市都市整備部 部長：中平良太
- ・大輪会 事務局長：櫻井秀樹



大輪会は、「大阪国際花と緑の博覧会」への参加をきっかけに設立された、関西を基盤とする企業グループで、地元大阪を花と緑で活性化する活動や支援を各地で行っています。泉佐野丘陵緑地には、テントや倉庫、高速炭化炉のほか、パークレンジャー養成講座の運営資金など、さまざまご支援をいただいている。さらにヤンマーホールディングス株式会社から重機、株式会社淀川製鋼所から倉庫の寄附をいただいている。

大輪会の構成企業（2020年6月現在）

株式会社アサヒペン、石原産業株式会社、岩井コスモ証券株式会社、エース株式会社、エスペック株式会社、大阪ガス株式会社、大塚化学株式会社、大塚食品株式会社、株式会社大林組、株式会社奥村組、株式会社カネカ、共英製鋼株式会社、株式会社関西みらい銀行、株式会社近鉄百貨店、株式会社きんでん、株式会社栗本鐵工所、株式会社鴻池組、江綿株式会社、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社、シキボウ株式会社、株式会社シマノ、新日本理化株式会社、積水ハウス株式会社、泉州電業株式会社、泉陽興業株式会社、双日株式会社、ダイダン株式会社、株式会社SCREENホールディングス、タカラスタンダード株式会社、タカラベルモント株式会社、タツタ電線株式会社、中外炉工業株式会社、東海リース株式会社、東洋テック株式会社、株式会社西島製作所、株式会社日本触媒、日本基礎技術株式会社、野村建設工業株式会社、野村證券株式会社、非破壊検査株式会社、AIG損害保険株式会社、フジテック株式会社、扶桑化学工業株式会社、村田長株式会社、株式会社森組、株式会社山善、株式会社ヤマダホームズ、ヤンマーホールディングス株式会社、吉本興業ホールディングス株式会社、株式会社淀川製鋼所、株式会社りそな銀行、ローム株式会社、ローランド株式会社

## 泉佐野丘陵緑地への支援

大輪会から2008年度より10年間にわたり、総額2億円相当の機材などの支援（人材育成講座の開催、育苗温室、ボランティア活動用の草刈機など）をいただきました。また2017年度には、追加支援をいただくことが決定しました。



パワーチッパー等の重機

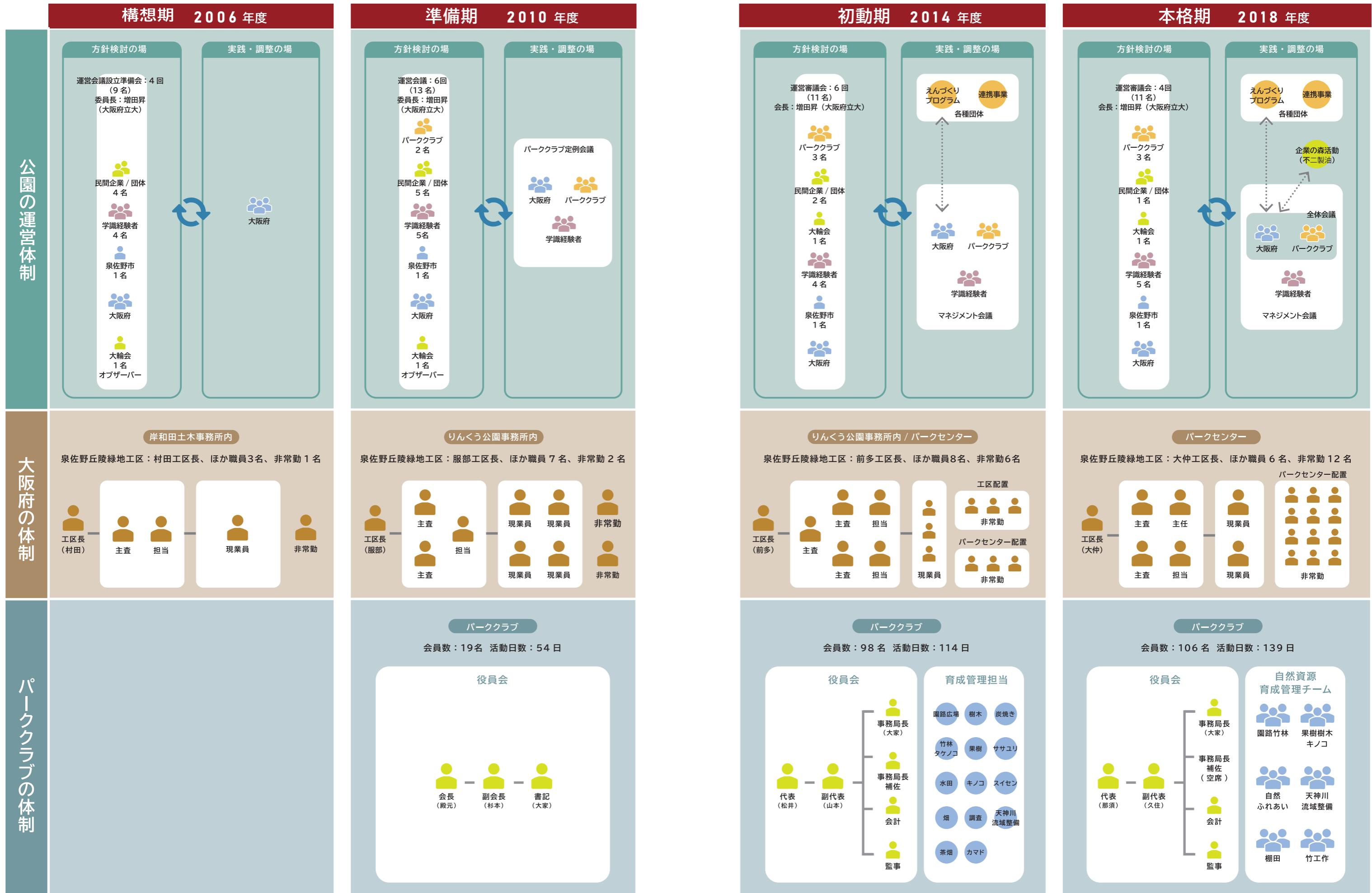


パーククラブの活動備品



公園で育てた花苗を府内各所に提供

### 3-03 | 運営体制の変遷





4章

# 公園づくり年表 (全容)

構想期

準備期

初動期

本格期

2006 年度 → 2007 年度 → 2008 年度 → 2009 年度 → 2010 年度 → 2011 年度 → 2012 年度 → 2013 年度 → 2014 年度 → 2015 年度 → 2016 年度 → 2017 年度 → 2018 年度 → 2019 年度

公園全体の主なできごと		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
構想期	準備期	初動期	本格期												
泉佐野丘陵緑地基本計画・基本設計策定 土地利用検討委員会開催	パーククラブ設立準備会がスタート パークレンジャー養成講座（全11回）がスタート 企業グループ「大輪会」による支援がスタート 運営会議がスタート パーククラブ設立 パーククラブ設立準備会がスタート パークレンジャー養成講座（全11回）がスタート りんくう公園事務所の建物内に泉佐野丘陵緑地工区の分室を開設	タケノコ掘りイベントがスタート 郷の館が完成（休憩・会議スペースとして活用） コラボレーション区域全体のゾーニングがスタート ミニ門松イベントがスタート 初のイベントとして公園ガイドを開催 パーククラブ設立	パーククラブがグランピングに分かれて活動スタート 運営会議が運営審議会に変更	パークレンジャー養成講座の回数が変更（全6回） 秋の郷遊びイベントがスタート パークセンターが完成	開園イベント開催 <b>中地区一部オープントーク（12.7へクター）</b> 泉佐野丘陵緑地工区がりんくう公園とパークセンターの2拠点に	企業の森活動がスタート パーククラブ設立5周年・記念誌発行 第35回緑の都市賞・内閣総理大臣賞を受賞 えんづくりプログラム・郷の棚田プログラムスタート 公園の愛称が公募により「えん十公園」に決まる	パークレンジャー短期講座（仮入会制度）スタート パークレンジャー養成講座を「養成講習」（活動体験中心）変更	不二製油（株）により企業の森活動がスタート パークレンジャー養成講座を「養成講習」（活動体験中心）変更 泉佐野丘陵緑地工区事務所をパークセンターに移転	中地区検討部会がスタート <b>中地区2.2へクターが追加開設（向井池周遊路など）</b>	第3回美し国づくり大賞・特別賞を受賞 <b>企業グループ「大輪会」による追加支援が決定</b>	中地区検討部会がスタート 不二製油（株）により企業の森活動がスタート パークレンジャー養成講座を「養成講習」（活動体験中心）変更 泉佐野丘陵緑地工区事務所をパークセンターに移転	中地区検討部会がスタート 不二製油（株）により企業の森活動がスタート パークレンジャー養成講座を「養成講習」（活動体験中心）変更 泉佐野丘陵緑地工区事務所をパークセンターに移転			



パーククラブ設立（2010年）



初のイベント（2010年）



郷の館利用開始（2011年）



開園イベント（2014年）



緑の都市賞・内閣総理大臣賞（2015年）



向井池周遊園路を開設（2019年）